

ほっと♥ゆうばり

第 23 号
2009年
8月1日

7月7日～21日 市議会 [地域懇談会]

- 再建計画 18 年後の夕張がどうなっていくのか見通してほしい。赤字の膨れた原因、北炭、国、道、市の責任を追及するプロジェクトを。経緯の公表と説明責任があるのでは。
- 花畑やツムラなど企業、新住民の受け入れのため住宅・教育環境を整えて。
- 高齢化を考えたシルバー住宅(除雪、浴室、管理人つき)の拡充を。
- 採掘権を国に買い上げさせる運動を。
- 地元にある資源の有効活用を。石炭産業を復興させてもらいたい。将来必ず需要価値が出てくる。
- 北炭の後処理、病院公立化の費用、観光行政への積極的指導など国、道の責任もある。総務大臣も国会で国の責任を認めている。353億円を市民にだけ払わせるのは理不尽。議会のがんばりが今問われているのでは。
- 破綻について議員として責任をどう思っているか。
- 議会で決議の場面は、夜間や日曜など市民の参加しやすい時間設定を。
- 議員は政治家なんだから、行政と同じことを言わないで、再建団体になった経緯を勉強・検証してほしい。議会と市民が一致し行動すべき。議会がリードしなくて誰がする。
- 議会の懇談会開催はよかったと思うが 率直に言って遅い。353 億市民だけが負担するのは納得がいかない。市民は知らされていなかった。今後も市民の声に耳を傾けて。
- 353 億の返済について議員さんは納得して返すつもりか。1 万 1 千人の市民に負担させていいのか。このまま黙ってはいあと 16 年間返し続けることに

清水沢 紅葉山 沼の沢 鹿の谷 本町 南部

に参加した住民の声、意見のいろいろ...

- なる。いま、何か変だ、不当だと言わなければならない。
- 赤字のそもそも論を議会でプロジェクトを。住宅・介護・独居老人など、地域の実情を聞きとり、対策を。
- 学校一校化の再考をしてほしい。路線バスも承服できない。他の町へ転出する人も出ている。お金ではなく子ども優先で決めてもらいたい。
- 人口を減らさないことを考えてもらいたい。子どもを持つ世代が安心して暮らせるように。
- 若者が夕張に住み着くことが大事。
- こういう懇談会をやりながら、若者が外に出て行かない、魅力のある町を時間をかけても作ってほしい(若年世代)。
- 住民サービスの基本である連絡所の継続、設置を望む。
- 産廃の安全確保を。
- 議会資料を有料でもいいので、傍聴者にも配布してもらいたい。
- 住民自治基本条例づくりは、市民の声、意見をぜひ取り入れて。

.....意見百出.....

市内6地域の会場に集った人(約300名)が、議員8人と、懇談会という場で接し合う初めての機会となったのではないのでしょうか。

回を重ねることで、わがマチの課題や難問を解く道筋が作られると思います。議員の皆様、参加の皆様お疲れ様、ありがとうございました。第2回目の懇談会も期待しています。

見たい 知りたい 学びたい

★ 救急搬送について学ぼう会★

しました。

7/17(金) 午前10時～ 末広生活館

市消防署から副署長さん、救急担当主査さん
参加者：鹿の谷、末広地区から31名
当市の救急出動状況や救急医療状況についてお話していただきました。

<知ったこと>

- ▲財政破綻にともない、市内に救急告示医療機関がなくなり、管外搬送が増えた。
- ▲出動件数が減った(全国平均350件、夕張506件)

<学んだこと>

- ▲入院治療が必要ないと思われる時——
近くの病院での処置依頼します。
市内の医院で処置するという病院も出てきている
(参加者の声：午後7時ころ急に意識が遠のきました。かかりつけは市外でしたが、市内の祝日当番医に診てもらえ、助かりました)
(夜間、日曜当番医を知っておかなくちゃ！)
- ▲入院治療が必要と思われる時——
市外搬送となるので、受け入れ先を確定後、発信します。
(声：「受け入れ先と連絡中ですので少し時間がかかります」と一声かけてくれると安心します。)
- ▲かかりつけ医でも受診外の時(例：血圧の受診者が急なケガ)は他の医療機関ということもある。
(声：かかりつけの先生に受診外でも受け入れてくれるか、聞いておいたほうがいいのかもネ)
(声：近所に医療知識のある人がいたら、不安を減らすことができる)(ご近所の連絡体制があるといいな。『命のボタン』を備えておきたいね)

◎市内に救急病院があってほしいね。

▼消防署員から

「救急処置」についての講習もやってみたい。

夏まつり 清水沢イベント広場

8月8日(土) 16:00～
屋台村オープン
18:30～
阿呆踊りパレード
19:45～
納涼花火大会

夏まつり



盆踊り

去年参加の龍谷大学の青木先生
24名の学生チームが踊ります

今年も

盆踊り大会 市内各地

- ☆滝の上 8/14(金)
- ☆紅葉山 8/14(金)、15(土)
- ☆沼の沢 8/14(仮装あり)、15(土)
- ☆清水沢 8/14(金)、15(仮装)
雨天の時は16(日)
- ☆若菜 8/14(金)
- ☆末広2 8/14(金)
- ☆本町 8/14(金)

本のつどいに
みんな集まれ!

8月1日(土)、2日(日)の2日間
ゆうばり市民会館がステキな本と
集まる人の宝島になる——

第32回 北海道子どもの本のつどい
夕張大会



すべての子に本の楽しさを

10の分科会→ ①絵本がいっぱい
②語りの部屋③遊ぶ④障がい者と
子どもの本⑤児童文学⑥物語の力
⑦創作⑧図書館活動⑨地域 夕張
の子どもとその未来⑩子ども

スペシャル対談→1日(土)13:30～
あさのあつこ×金原瑞人
「あさのあつこの世界を語る」
問合せ→56-6601(図書コーナー)

スポーツ大会続々

- 8/2 ゆうばりジョギング大会
マウントレースイ→運動公園
- 7/31～2 リトルスプーン杯
(少年サッカー)平和運動公園
- 7/29～4 メロンリーグ in 夕張
(高校生野球)平和運動公園ほか
- 8/5～7 メロンカップ
(高校サッカー)平和運動公園
- 8/6～8 中学生サッカー合宿
- 8/8～9 桜カップ
(少年サッカー)平和運動公園
- 8/9～12 創成カップ
(高校生バスケット) 文スポ他

協力:㈱ネクスト夕張

本がつなぐ心のキャッチボール

「昭和史と夕張」

保阪正康 講演会

財政破綻したマチとして、いまや知名度日本一の夕張市。
炭鉱で栄え衰え、観光で浮き沈み滅んだかに見える山の中のマチに、
いま11,500余の人が暮らしている。
人跡未踏の山峡に明治21年(1888)、石炭の露頭が発見されて以来、
夕張は日本のエネルギーを支え続けてきた。わが国近代化の栄光と悲惨を
背負ってきたともいえる。明治、大正、昭和と日本の政治と経済に翻弄され、
切り捨てられた地方の典型でもあるだろう。
21世紀、平成の時代、財政赤字の危機は、ひとり突出した夕張だけの問題だろうか。
日本と世界の同時代の歴史を学び、夕張の歴史を直視することで
明日への生きる道を探そうと思う。
保阪正康さんのことばから力と光を見いだしたいと思う。

昭和史研究の第一人者が

とき●2009/8/10(月) 午後6時～ 無料
ところ●市民研修センター 夕張市清水沢宮前町
主催◆ゆうばり再生市民会議
【問い合わせ】☎0123-59-6111 上木まで
共催◆道新文化センター

ほさか まさやす
講師 保阪正康 ノンフィクション作家
1939年12月、札幌市に生まれる。札幌東高を経て、
同志社大学文学部社会学科卒業。日本近代史、特に
昭和史の実証的な研究に取り組む。個人誌「昭和史講
座」を中心とした一連の昭和史研究で2004年、菊池
寛賞受賞。著書に「東條英機と天皇の時代」「父が子
に語る昭和史」「自伝の人間学」「あの戦争は何だった
のか」「明仁天皇と裕仁天皇」など多数。
父の保阪孝さんは夕張南高校の数学教師として夕張
に在住した。1959(昭34)～1976(昭51)年まで。



昭和という時代を自らの体験を踏まえて見つめ、客観化して語り継ぐ